

Customers お客さま

お客さまの期待を超える価値の提供を目指して

ヤマハ発動機グループが「モノ創りで輝き・存在感を発揮し続ける企業」であるためには、その製品がまずお客さまにとって価値と満足感を伝えるものとなる必要があります。次世代のモビリティ・ライフをより安全で快適なものに。ヤマハ発動機は、お客さまの期待を超える安全で質の高い商品とサービスの提供を目指します。

社会的課題へ取り組む事業活動

ヤマハ発動機は、持続可能な社会実現のために「パーソナルモビリティ」の進化が果たす役割は大きいと考え、中期経営計画の施策<将来成長シナリオの実現>の一環として、低燃費化をもたらす次世代環境対応エンジン開発の取り組みや、新動力源「スマート・パワー」の開発を進めています。その一つとして2010年9月には国内市場に向けて電動二輪車『EC-03』を発表。家庭用電源にて充電可能なプラグイン方式を採用した同製品は、低炭素化社会を実現する新しいモビリティとして市場からの高い評価を獲得しました。

また、1993年から取り組む電動アシスト自転車「PAS」事業も、省エネルギー、高齢化対策、地域活性化に貢献する事業として多方面から注目されています。さらに、多様なお客さまのニーズに応え、電動車イス事業をより深化させるなど、ヤマハ発動機はさまざまな社会的課題に事業を通じて取り組み、人々の夢を知恵と情熱で実現し続けています。

アセアンの成長を支える二輪車事業

アセアン諸国は現在、急速な経済成長に交通インフラの整備が追いつかず、未舗装道路が多い現状にあります。雨期になると道路が冠水してしまうため、大型タイヤを装備し、耐久性や経済性にも優れたモペッド型二輪車が生活に密着した移動手段としてアセアンのお客さまから支持されています。

ヤマハ発動機では、燃費効率の高いFI^{*}搭載モデルなどの独自

技術を積極採用するとともに、女性の社会進出を背景にスリムな女性向けモペッド『Mio(ミオ)』を発表するなど、アセアン各国のニーズに対応した商品を積極的に提供することにより、経済の成長と人々の移動を支える役割を果たしています。これらの活動から現地のお客さまがヤマハブランドに抱く信頼感は非常に強く、アセアン市場に確固たるプレゼンスを確立しています。

※FI: フューエル・インジェクション(電子制御燃料噴射装置)

各国の社会交通環境に合わせた安全運転普及活動

モビリティ製品で最も大切なステータスは、安全性です。ヤマハ発動機グループでは製品における安全性を最大限に追求するとともに、お客さまの安全運転技能の向上も図るべく、二輪車を中心にATVやスノーモビルなどの全製品領域で「ヤマハライディングアカデミー(YRA)」をグローバルに展開し、各国の社会交通環境に合わせた安全運転普及活動を積極的に推進しています。

Employees 従業員

価値と喜びを共有できる創造性豊かな組織を目指して

ヤマハ発動機グループでは、個人と会社が「高い志を共有し、研鑽しあい、協力しあい、喜びを分かちあう」ことを目指して、多様性が尊重される働きやすい職場づくりを進めています。

❖ 創造性を導く多様性を活かした職場環境

ヤマハ発動機グループでは、従業員と会社の関係を「パートナーシップ」、会社が担う役割を「自立した個人に対する魅力づくり」と位置づけ、相互確認に基づく多様なキャリアプランの選択を尊重するとともに、フレックスタイム制度や育児・介護休職制度、定時退社デーなど、ワークライフバランス(仕事と生活の両立)の実現を促す各種の制度を設けています。

また、定年後の再雇用制度も定着し、障がい者の安定雇用にも取り組むなど、従業員の創造性を高める多様性を活かした職場環境づくりに努めています。

❖ グローバルな視野を持った人材の育成

グローバルにビジネスを展開する企業グループとして、海外で活躍する人材を育成するための各種研修制度も設けています。

英語やスペイン語、インドネシア語など、事業展開国の言語を学ぶ自己啓発講座は毎年、受講希望者が拡大しています。海外赴任者が必要な業務スキルとともに現地の文化や倫理について学ぶ場となる駐在要員育成研修制度や海外留学制度も充実しています。

Business Partners 取引先

サプライヤーとの協働で持続的な成長を目指す

ヤマハ発動機グループは、「相互信頼・相互繁栄」の精神に基づき国内外さまざまなサプライヤーと協働で、持続的な成長の実現に取り組んでいます。

❖ グリーン調達推進

ヤマハ発動機グループでは環境負荷低減・資源効率利用の視野から「グリーン調達ガイドライン」を設け、各サプライヤーと価値観・情報を共有してグリーン調達を推進しています。

2010年度は、CSR推進の視点から「調達先CSRガイドライン」を策定しました。

❖ 公正な取引関係の尊重

国内においては、経済産業省から発行される「自動車産業適正取引ガイドライン」に基づき、下請法などの法令遵守に努めるとともに、ヤマハ発動機グループの倫理行動規範を開示し、公正な取引関係の構築に努めています。

また、災害などのリスクに対応して整備を進める「事業継続計画(BCP)」においてもサプライヤーに対する支援を行っています。

The Community 地域・社会

社会に貢献する企業として潤いのある地域づくりを目指す

「世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する」ことを企業目的とするヤマハ発動機グループは、その製品、技術、人材、施設を有効に活用し、地域社会の皆さまとのコミュニケーションを通じて、潤いと活気のある地域社会づくりに貢献していきます。

地域社会に貢献する電動アシスト自転車

ヤマハ発動機グループでは、電動アシスト自転車「PAS」の官公庁・法人向けリースシステム「パスクル」を2009年から展開しています。近年では、観光資源をより有効に活用した魅力的な街づくりのために同システムを活用する試みが積極化しています。

2009年10月には、日本有数の観光地である静岡県熱海市で、市街地と海岸部を中心に点在する観光ポイントを「PAS」やボートによって結ぶ社会実験にて活用。2010年にも山梨県富士河口湖町や岐阜県美濃市でも同様の実験が行われ、市民や観光客の移動利便化を図る地域の取り組みに大きく貢献しています。

全社挙げて社会貢献活動をサポート

ヤマハ発動機とヤマハ発動機販売では、「ヤマハ・ナイス・ライド募金」活動を通じて公益財団法人「日本盲導犬協会」に活動資金を贈呈しています。また、2004年からはグループ全従業員4万人のボランティア意識を高めるために社内イントラネットの情報共有システムを活用して「4万人のV作戦」活動を展開しています。2010年の活動延べ人数は42,834人で、3年連続の目標達成となりました。

The Environment 地球環境

持続可能な発展を目指した地球環境との共存

電動アシスト自転車や電動二輪車など、基軸事業であるパーソナルモビリティの分野で低炭素化社会の実現を目指すヤマハ発動機グループは、企業活動のすべてにおいて地球環境との調和に努め、持続可能な社会を実現するための積極的な取り組みを進めています。

CO₂排出量削減への取り組み

ヤマハ発動機グループは、二輪車を中心とした輸送機器メーカーとして、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題に挙げ、製品の開発から製造、使用、廃棄に至るライフサイクル全体での取り組みを中心に、事業活動全般における温室効果ガスの削減を進めています。また、国内、海外のグループ会社のエネルギー使用量削減に向けた活動状況を確認しながら進捗の遅い会社に対して支援を行うなど、効率的な温室効果ガス削減に取り組んでいきます。

環境負荷物資削減への取り組み

ヤマハ発動機グループでは、事業展開各国の規制に準じて、人体や環境に有害となる化学物質の排出物や廃棄物の含有量についての報告も行っています。

ヤマハ発動機が排出するPRTR^{※1}制度報告対象物資の99%以上はVOC^{※2}となり、そのほとんどは塗装工程に関わるものです。今後も低VOC塗料の採用拡大、塗着効率の改善、廃塗料の削減を推進することで環境負荷物資削減への取り組みを進めていきます。

※1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register (環境汚染物質排出・移動登録)

※2 VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

省資源・省エネルギーへの取り組み

循環型社会の実現に向け、製品の開発、生産、使用、廃棄の各段階で「3R (Reduce、Reuse、Recycle)」の徹底が重要視されています。

ヤマハ発動機グループでは、「製品・工場でのリサイクル100%」「ロングライフの達成」を2010年度の目標に掲げ、部品点数の削減や小型化の推進、再利用可能な物資を活用した部品の採用、さらに部品リサイクル性データ集計システムの運用を高め、3Rの向上に努めています。

生物多様性保全への取り組み

ヤマハ発動機グループでは、地球環境の保全・生物の多様性維持にも努めています。テストコースの建設を予定する静岡県菊川市においては、用地および周辺地域の環境評価を行い、その結果を基に生息する生物や環境を保全するための計画を作成。「生物環境保全協定書」として静岡県県民部環境局自然保護室に提出しました。これに基づき、周辺環境に配慮し、同施設の建設を進めていきます。

エコマインド醸成への取り組み

地球環境との共存を図るためにはすべてのステークホルダーと連携してその重要性を認識し、行動していくことが大切と考えるヤマハ発動機グループは、エコ通勤活動などの取り組みを社内で推進するとともに、CSRレポートなどによる情報発信を通じてコミュニケーションを深めています。